

名勝 旧観自在王院庭園発掘調査報告書Ⅱ

— 第11次調査 —

2021

令和3年3月

平泉町教育委員会



観自在王院全景（南から）



調査区全景（南から）

巻頭カラー 1



親自在王院西側土塁と調査区（南から）



北区（南から）

序

町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達行窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧観自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年(1189)九月十七日条の「寺塔已下注文」に、観自在王院(阿弥陀堂と称する)は基衡の妻(安部宗任の娘)が建立したこと、小阿弥陀堂も基衡の妻が建立したことが記されています。

観自在王院跡は、昭和27年に国の特別史跡毛越寺跡附鎮守社跡の一部として指定されました。昭和29～31年に平泉遺跡調査会によって行われた調査によって、園池の北側から大阿弥陀堂及び小阿弥陀堂の痕跡を示す礎石が発見されたほか、園池の南側では棟門跡が確認されています。平成17年には旧観自在王院庭園として名勝に指定されています。

当町では、遺跡の重要性に鑑み昭和47～53年度にかけて地元の方々のご理解とご協力を得ながら史跡整備を進め、史跡の恒久的な保存措置を図っております。平成27・28年度に史跡南西側の公有化を実施したことを契機に、前回の整備完了から約40年が経過していることから、平成30年度より再整備を視野に入れた内容確認調査を開始しました。

本報告書は令和元年度に実施しました第11次調査成果を収録したものです。本次調査では、観自在王院跡の西側を区画する土塁跡や造営時の整地層を確認しております。

観自在王院跡保存修理事業につきましては、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会・宗教法人毛越寺に対し深く感謝申し上げます。

令和3年3月

平泉町教育委員会

教育長 岩 淵 実

例 言

- 1 本書は令和元年度（平成31年度）に国庫補助事業より実施した名勝旧観自在王院庭園第11次調査の報告である。
- 2 野外調査期間は令和元年10月31日から令和元年12月9日までである。室内整理期間は令和2年3月31日までである。
- 3 調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山地内である。調査面積は約125㎡である。
- 4 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

(1) 令和元(平成31)年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 淵 実

平泉文化遺産センター

所 長	千 葉 登	主 事	那 須 駿 也
所 長 補 佐	高 橋 国 博	主 任	菅 原 克 義
主任主査文化財調査員	菅 原 計 二	補助員（臨時）	二階堂 里 絵
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	補助員（臨時）	佐 藤 昌 弘
主任主査文化財調査員	島 原 弘 征	補助員（臨時）	熊 谷 明 美
文化財調査員	鈴 木 博 之	補助員（臨時）	菊 地 道 子

(2) 令和2年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 淵 実

平泉文化遺産センター

所 長	千 葉 登	主 事	鈴 木 理 世
所 長 補 佐	島 原 弘 征	主 任	鈴 木 理 世
主任主査文化財調査員	菅 原 計 二	補助員（臨時）	二階堂 里 絵
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	補助員（臨時）	佐 藤 昌 弘
文化財調査員	鈴 木 博 之	補助員（臨時）	熊 谷 明 美
主 任	佐々木 成 淳	補助員（臨時）	菊 地 道 子

- 5 発掘調査・室内整理は島原・鈴木江利子が担当し、菊地の協力を得た。事務は菅原(令和元年度)・佐々木(令和2年度)が担当した。
- 6 本書の執筆は、島原・鈴木江利子が担当した。編集は島原が行った。
- 7 調査の基準点は平成30年に観自在王院跡に設置した基準点（平面直角座標X系に準拠）をもとに調査員が打設した。
- 8 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。
- 9 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表している。内容が異なる場合は本書を優先する。
- 10 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）
宗教法人毛越寺、文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 11 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
- 12 発掘調査参加者（順不同・敬称略）
阿部俊春、石川巖登、石川誠、小野寺啓悦、小岩佳晃、小松代方代、佐々木直久、佐々木利雄、佐藤彦悦、佐藤彦、菅原静香、菅原まつ子、菅原有利、田村功、千葉勝也、千葉セツ子、千葉晃久、千葉哲夫、千葉ナカ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉みよ子、矢崎木綿子、吉川琴子

目 次

I 位置と環境	1	III 調査の成果	3
1 観自在王院跡の位置	1	1 検出遺構	3
2 観自在王院跡の現状	1	2 調査概要	3
II 調査の概要	3	3 出土遺物	14
1 調査目的	3	IV まとめ	14
2 調査方法	3		

表 目 次

第1表 かわらけ観察表	13	第3表 国産陶器観察表	13
第2表 中国産磁器観察表	13	第4表 銭貨観察表	13

図 版

第1図 平泉町の位置	1	第5図 北区～東区断面図	10
第2図 観自在王院跡第11次調査位置図	2	第6図 西区～東区断面図	11
第3図 観自在王院跡第11次調査全体図	5	第7図 第10・11次遺構配置図	12
第4図 西区断面図	9	第8図 出土遺物	13

写 真 図 版

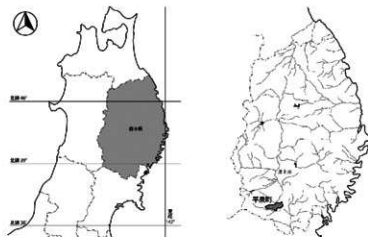
写真図版1 西区・東区南側	16	写真図版6 北区(1)	21
写真図版2 西区	17	写真図版7 北区(2)	22
写真図版3 西区中央から東	18	写真図版8 調査前状況と柱穴	23
写真図版4 東区	19	写真図版9 出土遺物	23
写真図版5 北区・東区北側	20		

I 位置と環境

1 観自在王院跡の位置

平泉町は岩手県南部、北上川中流域に位置する人口約7,300人、面積約64平方kmの小さな町である。南は一関市、北は奥州市に接している。12世紀には奥州藤原氏の拠点として栄え、中尊寺や毛越寺庭園を始めとする数々の文化財が残り、往時をしのばせている。

観自在王院跡は毛越寺の東隣に位置し、周辺には住宅や水田が広がっている。



第1図 平泉町の位置

2 観自在王院跡の現状

平泉は平安時代末の約100年間、東北地方を勢力下に置いた奥州藤原氏の拠点であり、当時の痕跡を多く残している。その一つである観自在王院跡は、奥州藤原氏二代基衡の夫人が建立した寺院の跡で毛越寺の東隣に位置する。「吾妻鏡」には観自在王院（阿弥陀堂と称する）は基衡の妻（安部宗任の娘）が建立したこと、小阿弥陀堂も基衡の妻が建立したことが記されている。

境内の大きさは南北250m、東西120mを測り、敷地の北側に大阿弥陀堂・小阿弥陀堂などの主要堂宇が建ち、その南側には中島を擁する舞鶴が池と呼ばれる大きな園池が位置する。

昭和29～31年に平泉遺跡調査会によって行われた調査によって、園池の北側から大阿弥陀堂及び小阿弥陀堂の痕跡を示す礎石が発見されたほか、園池の南側では棟門跡が確認された。昭和47～52年には史跡整備に伴う内容確認調査が行われ、新たに西門跡、導水路、牛車を取める車宿が見つかった。導水路は池西側にある滝石組から供給されているが、滝石組に接続する導水路は西側土塁付近を暗渠でぐり、毛越寺裏にある弁天池を取水源にしていることが確認された。なお、暗渠に用いられた材木は全てクリ材であった。

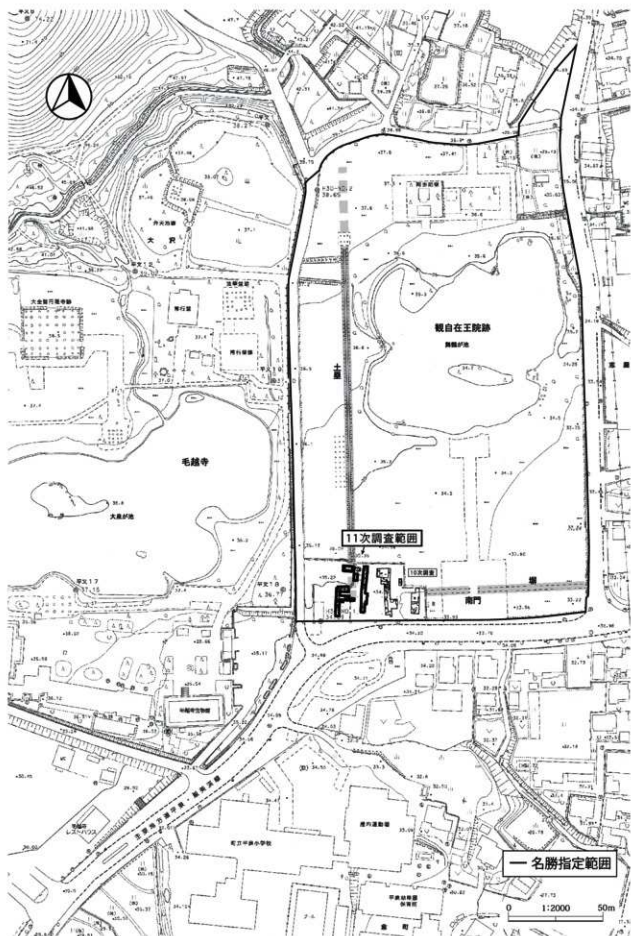
前述の平泉遺跡調査会による調査の後、平泉町は「平泉町文化財保護基本計画」を策定し、「観自在王院跡保存整備計画」に基づき観自在王院の復元的整備を実施することとした。計画は①土地の公有化と整備、②文化財の管理保護、に重点を置いたもので、文化財に対する国民の親しみと理解を深めることがねらいであった。土地の公有化は昭和42～50年度まで行い、整備事業は一部公有化と同時進行となるが、昭和49～53年度に実施している。

その後、平成17年に名勝山観自在王院庭園として指定され、昭和27年の特別史跡指定と併せて、史跡・名勝の二重指定を受けた。平成27・28年には昭和の整備の際に公有化できなかった史跡南西側の公有化を実施し、将来的には史跡南西側の整備を目指して、平成30年度より公有化した部分の内容確認調査を開始することになった。

平泉で最初期に整備された庭園であり、整備完了から40年が経過し老朽化等の問題を解消するための再整備が求められている。

参考文献

- 藤島玄治郎1961 『平泉 毛越寺と観自在王院の研究』
平泉町1979 『観自在王院跡整備報告書』



第2図 観自在王院跡第11次調査位置図

II 調査の概要

1 調査目的

将来的な史跡南西側整備を日指した内容確認調査で、今年度が2年目にあたる。親自在王院跡はこれまで、平泉遺跡調査会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め10回の調査が行われてきている。11次調査は、親自在王院跡南西側を対象に調査を行った。

2 調査方法

グリッド 今回の再調査に併せて親自在王院跡の周辺に基準点を打設し、遺構実測や遺物出土地点の記録等の実測作業の基準とした。

なお、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。よって、今回の基準点の数値は、周辺の調査成果との整合ができるよう変動前の数値(測地成果2000)に変換した測量成果を使用している。

粗掘・検出 遺構検出面まではスコップもしくは移植ベラで表土層を剥ぎ、遺構や層位の確認を進め、鋤簾等で遺構検出作業を行った。

精査 基本的には検出に留めた。ただし、遺構の年代・層序等を確認するため整地層・溝は部分的にサブレンチを入れ、土坑・柱穴は半裁までに留め調査を行った。

記録 遺構の実測は、平板測量もしくはグリッドを1×1mに分割したメッシュを用いて測量した。遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ(ニコンD90)をメインカメラとし、遺構及び調査全景写真時には、メインカメラに加えて6×7版カメラ(リバーサル)で撮影を行った。

埋め戻し 山砂で遺構面を覆い、その上に調査で掘削した土を埋めた。

普及活動 現場は随時公開し調査に支障がない範疇で説明等を行った。調査成果は、「広報ひらいずみ」等で公表している。

III 調査の成果

1 検出遺構

検出遺構は、土塁跡、整地層、溝跡5条、柱穴4個である。

2 調査概要

(1) 概要

11次調査の位置は親自在王院南西部で、前年度調査を行った10次調査区の西側に位置する。同調査の検出遺構は東西方向の区画溝(道路側溝)や土塁、柱穴などで、今回の11次調査区は溝や土塁の延長部にあたる。また、すでに整備された南北方向の西側土塁の南に位置しており、遺構の状況を調査した。

調査範囲は、東区、西区、北区に分けて設定した。東区は南北方向に長く24.5m、幅は2~3mである。西区は南北15.6m、東西7mのF字型に設定し、後に拡張部を設けている。北区は南北3m、東西5.5mの範囲である。全体では南北26m、東西16mの範囲になる。

西区：レンガや板などが埋められていた土坑や、配管の跡など、現代に開けられた痕跡が多く、削平が著しい様子である。中央には東西方向の1号溝が検出しており、前年度調査区と同様に南側の範囲には遺構が検出していない。北側も攪乱が激しいが、一部整地と思われる層位と自然の流路と思われる

る跡を確認した。

東区：南側は北側より低い状態で、後世に盛上し水田耕作をしていた。盛上を除去すると、南寄りに拳大の石が多く検出する箇所が現れた。北西から南東側に向けて続く様相を呈し、ここと西区の1号溝が交わる箇所にトレンチを設けたが、石の検出はあったものの攪乱を受けていた。3号溝南側のトレンチ中央では、水田層直下に薄く整地が残っていた。北側では整地や2号溝、3号溝を検出している。3号溝の西側にトレンチを追加し遺構が続いている状況を確認した。

北区：現状で周辺より高く、遺構の残存状況が良好ではないかと期待された調査区である。東西方向の2号溝、南北方向に5号溝、5号溝の東に土塁跡を検出している。他の調査区より削平が少なく、現地形が周辺より高く残されていたことから、遺構残存状況も良好で、東区に比べ2号溝の幅は広い状況で検出している。土塁構築層からは埋納と思われるかわらけ(No.1・2)を出土している。

(2) 溝跡

5条検出した。属性は観察表に記載し、ここでは遺構ごとに事実記載を述べる。

遺構名	検出全長 (m)	幅 (m)	断面形	深さ (m)	方位	検出標高 (m)	底面標高 (m)
11SD 1	5.9	0.94~1.05	逆舟形	0.30~0.37	N89° E	34.40~34.55	34.10~34.18
11SD 2	12.5	0.89~1.20	楕~逆舟形	0.30~0.40	N88° W	34.35~34.66	34.00~34.28
11SD 3	6.6	2.27~2.80	皿状	0.20~0.42	東-西	34.32~34.36	39.88~34.04
11SD 4	3.1	1.40~1.80	皿状	0.17~0.25	北西-南東	33.60~33.78	33.48~33.52
11SD 5	2.4	3.00程度	—	以上	南-北	35.10	34.36以下

1号溝 (11SD 1)

西区中央を東西方向に走っている。西調査区外には続いていると思われるが、東側は他の遺構に切れ、また水田耕作により削平されていると考えられる。昨年度検出の1号溝に続く位置であり、親自在干院を区画している溝と考えられる。底面は西から東に下がっており、比高差8cmを測る。昨年度に近い東区では、広く水田耕作の跡があり、削平が著しく検出できなかった。東区との間の現代の側溝で区切られた東側に設けたトレンチでは、1号溝の底面標高より20cm程度低くなっており、東区と同様検出できず、遺構は失われたと考えられる。底面近くでは川原石を多く検出しており、4号溝と似た状況がうかがえる。西区では1号溝と4・5号溝の延長線上にあたる場所で遺構の新旧関係を確認しようと調査したが、遺構の切り合いが平面プランでははっきりしなかった。1号溝は断面51-52において5号溝と思われる5・6層に切られている状況を確認した。ただし、5号溝は北側壁の断面39-40では攪乱に切られて不明瞭である。11-17層にかけて川原石が検出し、断面51-52の7層(下層)と共通する層位を呈している。ただ石の大きさが異なり、断面39-40側では小さく、地面に密着している。4号溝や5号溝が絡んでいる可能性はあるが、東区の位置が離れている点と、攪乱が妨げとなりはっきりしなかった。

西側では自然流路に切られており、溝の状態が崩れた箇所もある。断面27-28では南北に横断する掘り込み(2・3層)を確認し、北から続く流路とも考えたが、周辺で明瞭な続きが無いためはっきりしない。断面21-22では6・7層が他の箇所の下層と異なることから自然流路の可能性がある。断面19-20では6層に砂の層が入るなど、溝が浚深された状況がうかがえる。

<出土遺物>かわらけの細片2点と、箭びてはいるが釘状をした2cm大の破片1点である。ただし、周辺に自然流路があり流れ込みの可能性もある。なお、前年度では桃類の種が出土したが、かわらけは出土していない。

2号溝 (11SD2)

東区北側から北区にかけて検出している。検出距離は間に昨年度調査区を含み12.5mである。方向はN88°Wで、幅は0.9~1.0m程度である。北区では肩の標高は34.6~34.7m程度で、底は34.3m、深さは35~40cmである。遺構上には厚さ40cm程の整地があり、この整地と2号溝は、交差する5号溝に切られており、新旧関係は(新)5号溝→整地→2号溝(旧)である。なお、土塁構築層の下で2号溝の南側を検出したことから、土塁よりも古い遺構である。5号溝で分かれているため西側の整地と、土塁との関係は不明である。

東区では溝の肩が、34.35cm前後で、底は34.0m、深さは35cm程度である。東の端は整地もしくは別遺構に切られており(断面7-8)、消失している。遺物は出土していない。

3号溝 (11SD3)

東区北寄り、2号溝より南2~3mで検出している。西に拡張した範囲も含め東西方向で6.8m検出している。軸方向はN85°Wである。幅は2.0m~2.6mで、深さは30cm程度である。人為的に埋め戻されており、上面は浅黄~ぶい黄色粘土で整地されている。底は東側がやや低くなっている。東端は2号溝東側を切っている整地層もしくは掘り込みの延長にあたるが、3号溝付近では明瞭な掘り込みは確認できなかった。周辺の整地は上面をきれいに仕上げられていることもあり、これらの整地層は一連のもので、たまたま整地に伴う掘り込みが、2号溝付近で確認できたのかもしれない。

<出土遺物>桃類の種を東区で1/2、西側のトレンチで2点出土している。

4号溝 (11SD4)

東区南側は、家畜によって水田を耕されたと思われる跡の跡が残る。その他何もない平坦部と思われたが、拳大の石が多く含まれる範囲を確認した。この範囲を4号溝とし精査を行ったが、溝かどうかはっきりしない状況である。皿状に浅く窪み状で、深さは20cm弱である。埋土は灰色系の砂や粘土で、拳大の川原石を多く含んでいる。方向としては北西~南東に向いている。幅は1.5m程度で検出長は3.0m程、深さは20~25cmである。

当遺構の北西延長部にトレンチを設け(断面37-38)1号溝との関係を調査している。1号溝は検出していないが、最下面には川原石を多く検出している。川原石の検出面は東区の検出面より35cm高い位置である。断面37-38の石を検出する面の上に位置する7層は粘土が主体であり、4号溝の続きとは考えにくく、水田層と思われる。この様子から4号溝は水田に切られており、確認した石の面が1号溝かはっきりしなかった。

<出土遺物>東区南側では水田下層面や4号溝内からかわらけを出土している。今回の調査では比較的まとまって出土している方が絶対量は少ない。ただし、手づくねやロクロと分かる大きさの器体もあった。(燧石時期)軸線が他の遺構と異なるものの、かわらけが出土していることから12世紀の遺構と考えている。

5号溝 (11SD5)

北区で検出した南北方向に通る溝で、耕作土及び現代盛土を20~30cm程除去したところで表れた。2号溝とその上に広がる整地層を切っており、東に並行する土塁跡を切っているため、土塁よりも新しい溝である。北区南壁の断面47-48では、幅は2.95mで、西側の43層は川原石を含んでおり、溝埋土上面である可能性がある。深さは50cm程度まで確認したが、川原石が広がり、その面で精査を止めたことから底の状態は未確認である。石の大きさは10~20cmが主体であるが30cm程度の物も含まれている。

このトレンチ北側に昭和に整備された史跡公園が広がり、西側土塁も復元されているが、5号溝は土塁の西に並行している状況がうかがえる。

南側の西区では1号溝を切って東側に落ち込む遺構が検出しており、断面51-52では石が多く出土した様子から5号溝の続きである可能性がある。この北の断面39-40では細かい石が底に敷かれた状態で、5号溝の川原石とは石の状態が異なる。北トレンチと西トレンチの間は擾乱を受けていたため、遺構跡跡は思うようにはできなかった。

西区北東の範囲では擾乱でほとんど穴われた状態であるが川原石は多く存在していた。集石の中からは寛永通宝も出土しており、近世段階に5号溝に堆積した石が攪拌された可能性があるのかもしれない。

以上の状況から、北区より南側での5号溝の延長については、可能性がある範囲はあるものの判断が難しい箇所が多い。また、位置的に交差する可能性もある4号溝の埋土にも石が多く含まれるが、それとの関係ははっきりしなかった。間に設けたトレンチでは現代の水田層を埋め立てている状況である。

〈出土遺物〉かわらけの破片が少量出土し、ロクロの底と思われる破片も含まれていた。

(3) 土塁

北区東側に検出した。南北方向に伸びる西側土塁で、北側隣接地では昭和に整備された土塁が南北方向に伸びている。南の西区では、現地地形が既に低くなっており、土塁延長に当たる部分では柿の木などの根が2か所ほど残り、周辺が若干盛り上がりがある。土塁南西隅を示す様ではあったが、調査では土塁の延長は確認されず、現地地形が周辺より高い北区周辺のみ残存している可能性が想定される。

北区南の断面では、土塁の高まりは、上端幅35cm程度で、基底幅は幅が1.5m、高さは40cm程度である。東側は現状が土手で、整備した土塁のラインからは、後世に多く削平された様子である。西側は5号溝の側面により切られた状況である。土塁構築層下に地山があり、間に黄灰色の薄い自然堆積層を挟んでいる。この層は2号溝付近では整地層と2号溝の間に介在する層と思われる。P2が検出した箇所は土塁の西側で、この自然堆積層を掘削している状況がある。出土したかわらけは裾より若干上で、5号溝の28層の位置である。かわらけの縁が円状に確認できたため柱穴と思われたが、上層では検出していないことで、5号溝がある程度埋められた後にかわらけを埋めた可能性がある。

(4) 整地

北区では2号溝の上で、厚さ40cm前後の盛土が確認できる。東の土塁構築の層とは異なることで、周辺を埋めた整地と考えられる。

西区では擾乱を受けながらも北側に薄く検出している。南は1号溝の周辺までで、擾乱の掘削側面や断面29-30などで確認している。泥じりの少ない粘土を主体としている。

東区では土手から北側に、広く整地がされている。地山と同系色の粘土で覆っており、下層の遺構については判別しにくい状態である。整地層の堆積状況はサブトレンチで確認しているが、西側は薄く東側に厚い状態である。東側の整地は2号溝を切っている状態が断面7-8で確認できるが、東側全ての整地に明瞭な掘り込みがあるのかははっきりしない。2号溝近くの整地から、かわらけの細片や木片を少量出した。

(5) その他の遺構

柱穴：4個確認している。P1は東区の北側に検出している。整地層を掘り込んでいるが、周辺に他の柱穴は確認できなかった。P2は北区にあり、かわらけを含んだ状態から地鎮関係かと思われるが、かわらけの状態は摩滅し薄くなっている。西区の中央には2個平面で確認している。

29 L=34.800m 30



29-30

- 10YR3/2黒褐シルト 木の根や色混入する 表土+覆土
- 10YR4/3にふい貴輪粘土
- 10YR7/3にふい貴輪や2.5Y7/4浅黄砂などが混じる 木の根が入る最近の盛土
- 10YR4/1黄灰粘土と10YR7/2にふい貴輪粘土交互に重なり堆積
- 10Y5/1灰粘土と5Y6/1灰シルトがレンズ状に堆積
- 2.5Y6/2灰黄砂 5Y6/1灰粘土も堆積
- 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック 5Y6/3オリーブ黄シルトブロック 10YR6/6明黄粘土の砂などが混じる 木の根が多く含む
- 10YR5/3にふい貴輪の粘土と同色砂が集中する
- 2.5Y7/4浅黄
- 10YR5/6黄輪砂

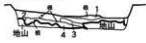
31 L=34.700m 32



31-32

- 2.5GY4/1暗オリーブ灰砂 同色粘土や2.5Y4/2暗灰黄粘土ブロック混入 炭倉
- 5G5/1緑灰粘土 2.5Y5/2暗灰黄砂ブロック混入
- 5Y5/2オリーブ粘土 土面は17.5YR5/6明黄シルト 固くしる(膨地の可能性)
- 2.5Y6/2灰黄砂 5Y6/2灰オリーブ粘土も含まれる
- 5Y6/2灰オリーブシルト 5Y7/3浅黄粘土ブロック混入
- 5Y6/2灰オリーブの砂も含まれる
- 地山

35 L=34.800m 36



35-36

- 2.5Y6/2暗灰黄シルト 2.5Y6/2灰黄砂含む 水田開墾
 - 2.5Y6/4にふい貴輪粘土 2.5Y6/2灰黄粘土ブロックや同色の砂混じる 整地
 - 2.5Y6/2灰黄砂 自然流土と考えられる
 - 2.5Y5/3黄輪粘土 5Y7/1灰白シルトブロックや砂混じる
- 地山 10YR5/2オリーブ灰 根が入る

39 L=34.800m 40



39-40

- 表土 覆土
- 2.5Y6/3にふい貴輪土 2.5Y6/3にふい貴シルト混じる 鉄分含む 黄土 覆土
- 10YR6/6明黄粘土ブロック 同砂や10YR5/2灰黄輪砂等が混じる 整地
- 10YR5/4黄輪粘土 2.5Y5/4黄輪粘土ブロック混入
- 2.5Y6/6明黄輪粘土 5Y7/1灰白粘土ブロックや2.5Y6/4にふい貴砂などが混じる
- 10YR6/6明黄輪砂 2.5Y6/1黄灰粘土混じる 地山
- 10YR4/3にふい貴輪シルト

- 35-36の2層につながる 10YR7/6明黄輪粘土ブロック 2.5Y6/1黄灰粘土ブロック混入 炭倉
- 2.5Y4/1黄灰粘土 コーポシ、鉄分含む
- 10YR7/3黄灰粘土 下は2.5Y6/4にふい貴砂堆積 小石含む
- 2.5Y5/2灰黄シルト 2.5Y6/6明黄輪粘土ブロックや砂混入
- 2.5Y6/2灰黄粘土 2.5Y6/3にふい貴砂が再び出現
- 10YR4/2灰黄輪シルト 炭倉
- 10YR6/3にふい貴輪シルト 10YR6/6明黄輪粘土ブロック混入 5YR/1灰白砂少し混入 炭 炭入込付
- 2.5Y5/3黄輪シルト 2.5Y5/6黄輪の砂や10YR6/6明黄輪粘土小ブロック混入
- 2.5Y4/1黄灰シルト 10YR6/6明黄輪粘土ブロック少し混入
- 5Y5/1灰粘土 同砂含む 5YR/1灰白シルト少し混入

21 L=34.800m 22

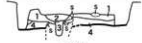


1号溝

21-22

- 表面は2.5Y3/2黒褐シルトで下は10YR5/4にふい貴輪粘土など混じる 黄土 覆土
- 2.5Y4/3オリーブ輪粘土 2.5Y6/6明黄輪粘土ブロックや2.5Y5/4黄輪砂などが混じる
- 5Y7/3浅黄粘土ブロック 10YR5/6黄輪粘土ブロックや2.5Y5/4黄輪砂混入
- 2.5Y6/2暗灰黄砂 2.5Y6/6明黄輪粘土ブロック混入
- 4層のうち、特に粘土少ない所
- 2.5Y6/2灰黄砂 少し粘性有る
- 2.5Y6/3にふい貴輪粘土ブロック 2.5Y6/4にふい貴輪粘土ブロック混入
- 2.5Y6/6明黄輪粘土ブロック 10YR6/2灰黄輪粘土などが混じる 整地層か

27 L=34.700m 28



1号溝

27-28

- 10YR6/6明黄輪粘土 2.5Y5/2暗灰黄シルト混じる
- 2.5Y5/1黄灰粘土 2.5Y7/6明黄輪粘土ブロック混入
- 2.5Y5/1黄灰粘土 2.5Y7/2暗灰黄シルトブロック混入
- 2.5Y5/2暗灰黄粘土 2.5Y6/6明黄輪粘土ブロック混入

19 L=34.800m 20



19-20

- 覆土層土 表土
- 2.5Y4/1黄灰シルト 鉄分、カーボン含む 表土
- 2.5Y5/2暗灰黄粘土 砂、鉄分、カーボン含む
- 2.5Y5/3黄灰砂 粘土混入 砂粒、鉄分、カーボン含む
- 2.5Y6/3にふい貴輪 2.5Y6/6明黄輪粘土ブロックや粗い2.5Y6/2灰黄砂混入
- 2.5Y6/2灰黄砂
- 10YR6/2灰黄輪砂 同粘土や10YR8/8黄輪粘土ブロック混入
- 2.5Y6/3にふい貴輪土 2.5Y6/2灰黄砂や2.5Y6/6明黄輪粘土ブロック混入
- 地山粘土
- 地山
- 2.5Y5/4黄輪粘土 10YR5/6黄輪粘土ブロック混入

33 L=34.800m 34



1号溝

33-34

- 2.5Y6/6明黄輪粘土 2.5Y5/2暗灰黄砂混入
- 2.5Y6/3にふい貴砂 2.5Y6/6明黄輪粘土状に混入
- 2.5Y5/2暗灰黄砂 10YR5/8黄輪粘土小ブロック混入
- 2.5Y5/2暗灰黄シルト 2.5Y6/6明黄輪や2.5Y6/1黄灰粘土などが混じる 土層影響か

23 L=34.800m 24



23-24

- 2.5Y5/2暗灰黄粘土 2.5Y7/3浅黄粘土(小ブロック)混入 鉄分含む
- 2.5Y5/3黄輪シルト 5Y7/2灰白小(つぼ)鉄分含む
- 10YR4/2灰黄輪粘土 5Y7/2灰白粘土ブロック混入
- 5Y5/1灰粘土 5Y7/2灰白小粘土ブロック混入
- 5Y5/2暗オリーブ粘土 5Y7/2灰白粘土ブロック混入 鉄分含む
- 2.5Y5/2暗灰黄砂
- 2.5Y5/2暗灰黄砂 鉄分少し含む
- 5Y7/2灰白粘土 地山

51 L=34.800m 52



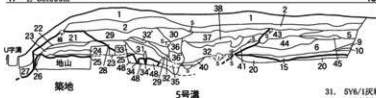
5号溝

51-52

- 表土
- 10YR6/2灰黄輪シルト 2.5Y4/1黄灰シルトブロックなど混入
- 2.5Y5/3黄輪粘土 鉄分含む
- 2.5Y5/1黄灰粘土 10YR6/6明黄輪粘土混入 炭少し含む 鉄分含む
- 10YR4/2灰黄輪粘土 2.5Y5/3黄輪粘土ブロック混入 炭倉
- 2.5Y5/2灰黄粘土 同砂混入 2.5Y1明黄輪粘土ブロックや砂混入
- 2.5Y5/2暗灰黄粘土 下方に2.5Y5/2暗灰黄砂がレンズ状に堆積
- 10YR6/2灰黄輪粘土 10YR4/6輪砂少し混じる
- 10YR4/2灰黄輪粘土 同砂や2.5Y7/2灰黄粘土小ブロック混入
- 10YR5/2灰黄輪シルト 10YR6/2灰黄輪シルトや同ブロック混入
- 2.5Y6/3にふい貴砂 同粘土含む 2.5Y6/3黄輪粘土小ブロック混入 10YR6/6明黄輪砂混入
- 2.5Y6/3にふい貴砂 10YR6/6明黄輪粘土ブロック混入
- 2.5Y6/2灰黄砂 上より砂混じり 2.5Y6/1黄灰粘土ブロック混入

0 1:60 2m

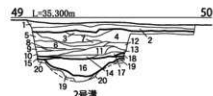
第4図 西区 断面図



47-48

- 2.5Y3/2黒褐シルト 炭含 表土
- 2.5Y4/2暗灰黄粘土 砂含 水田層か
- 5Y7/2灰白粘土 5Y6/1灰粘土ブロックや砂混じる
- 5Y7/3浅黄粘土 同砂や10YR5/6黄褐粘土ブロック混入
- 5Y7/2灰白砂 2.5Y6/6明黄褐シルトブロック炭分含
- 5Y7/2灰白粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロックや2.5Y3/2暗灰黄粘土などが混じる
- 2.5Y5/2暗灰黄シルト 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック少し混じる 砂、鉄分含
- 2.5Y7/4浅黄粘土 2.5Y4/1黄灰砂少々混じる 本末は地山か
- 2.5Y5/2灰白テープ粘土 同砂混入 鉄分含
- 2.5Y7/4浅黄粘土 同砂と5Y6/1灰粘土ブロック含
- 5Y7/2灰白粘土 2.5Y6/3に多い黄砂混入 鉄分、カーボン少し含 東側に鉄分多し含
- 2.5Y7/2灰黄粘土 2.5Y6/1黄灰砂混入
- 2.5Y4/1黄灰砂 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック少し混じる
- 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック 2.5Y5/4黄砂混入
- 10YR4/3灰黄粘土 同砂混入 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入
- 5Y6/2灰白テープ粘土 5Y5/2灰白テープ混入
- 5Y5/2灰白テープ粘土 5Y5/1灰粘土ブロック混入 鉄分、カーボン含
- 5Y4/1灰粘土 同砂混入する 10YR7/6明黄褐粘土ブロック 鉄分、カーボン含

- 5Y6/1灰粘土 同砂含
- 5Y6/2灰白テープ粘土 2.5Y7/4浅黄粘土小ブロック少し混じる 鉄分、カーボン含
- 5Y6/2灰白テープ粘土 2.5Y7/4浅黄粘土小ブロック混入 砂、鉄分含
- 5Y6/2灰白テープ粘土 5Y6/1灰粘土混じる
- 5Y6/1灰 2.5Y7/2灰白粘土ブロック混入
- 2.5Y5/2暗灰黄粘土 カーボン含 杖状の跡
- 2.5Y5/3黄褐砂 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック混入
- 2.5Y4/2暗灰黄粘土 砂混じる 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック少し混入 鉄分、カーボン含
- 2.5Y4/1黄灰砂 5Y6/2灰白テープ粘土ブロック 鉄分含(自然流砂層か)
- 2.5Y6/3に多い黄粘土 同砂混入 鉄分、カーボン含
- 2.5Y4/2暗灰黄砂 2.5Y6/3に多い黄粘土ブロック少し混じる 西のふくらみに粘土多い
- 10YR4/2灰黄粘土 炭含
- 2.5Y4/2暗灰黄粘土 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック カーボン、鉄分、小石含
- 2.5Y4/2暗灰黄 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入 小石や砂を含ま
- 10YR6/6明黄褐や2.5Y6/3浅黄粘土ブロックが混じる 2.5Y5/2暗灰黄砂少し混じる カーボン、鉄分含
- 5Y6/2灰白テープ粘土 2.5Y7/2灰黄粘土ブロック混入
- 2.5Y6/6明黄褐粘土 2.5Y6/1黄灰粘土混入
- 地山 2.5Y6/4に多い黄シルト



49-50

- 2, 5, 6, 9, 10, 15, 20層は47-48と共通
- 5Y7/3浅黄粘土 5Y6/2灰白テープ砂混入 鉄分含
- 5Y7/3浅黄粘土 2.5Y5/3黄褐粘土
- 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック 鉄分、カーボン含
- 2.5Y7/1灰白粘土ブロック 鉄分多し含
- 5Y7/2灰白粘土 5Y6/2灰白テープ混入
- 5Y7/3浅黄粘土 砂少し
- 2.5Y7/4浅黄粘土 5Y7/2灰白砂混入
- 2.5Y6/3に多い黄粘土 鉄分、カーボン含
- 10YR3/3黒褐シルト 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロックや2.5Y6/3に多い黄粘土ブロック混入 炭、鉄分少し含
- 2.5Y4/1黄灰粘土 10YR5/6黄褐粘土ブロック混入 炭含
- 10YR3/3黒褐シルト 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック少し混じる 砂、鉄分含
- 5Y6/1灰粘土 5Y5/1灰の砂を含ま 2.5Y6/3灰黄粘土を主とする場所もある

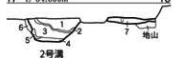
15L=34.5m16



15-16

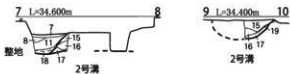
- 2.5Y6/2灰黄粘土 鉄分含む 小石、砂混入
- 2.5Y6/2灰黄粘土 鉄分含む 1層との境が不明瞭だが粘土を主体にする

17 L=34,600m



17-18

- 2.5Y7/4浅黄粘土 上の方12YR5/6黄褐粘土 下よいかたい 10YR5/2灰黄砂混入
- 2.5Y6/2灰黄砂 鉄分含
- 10YR7/2に多い黄砂や2.5Y7/6明黄褐粘土ブロックが混入する層 2.5Y7/6明黄褐や2.5Y4/1黄灰砂ブロックも混じる
- 2.5Y7/2灰黄粘土 同砂や鉄分、カーボン含
- 10YR6/6明黄褐粘土 2.5Y7/2灰黄の砂少し混入 炭少し含
- 2.5Y7/4浅黄粘土 2.5Y6/1灰白砂少し混入 炭少し含 地山
- 2.5Y5/2暗灰黄砂 2.5Y6/2灰黄粘土 10YR5/6明黄褐粘土などが混入 カーボン含 地山 2.5Y7/4浅黄粘土 炭少し混入



7

8

2号溝



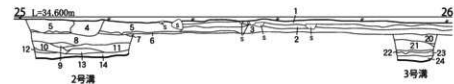
9

10

2号溝

7-8, 9-10, 25-26共通

- 表土
- 埋土
- 水田層
- 現代基礎跡
- 現代埋土の土
- 水田下床 10YR6/6明黄褐粘土
- 10YR5/6黄褐粘土 2.5Y6/2灰黄シルトブロック混入 カーボン含

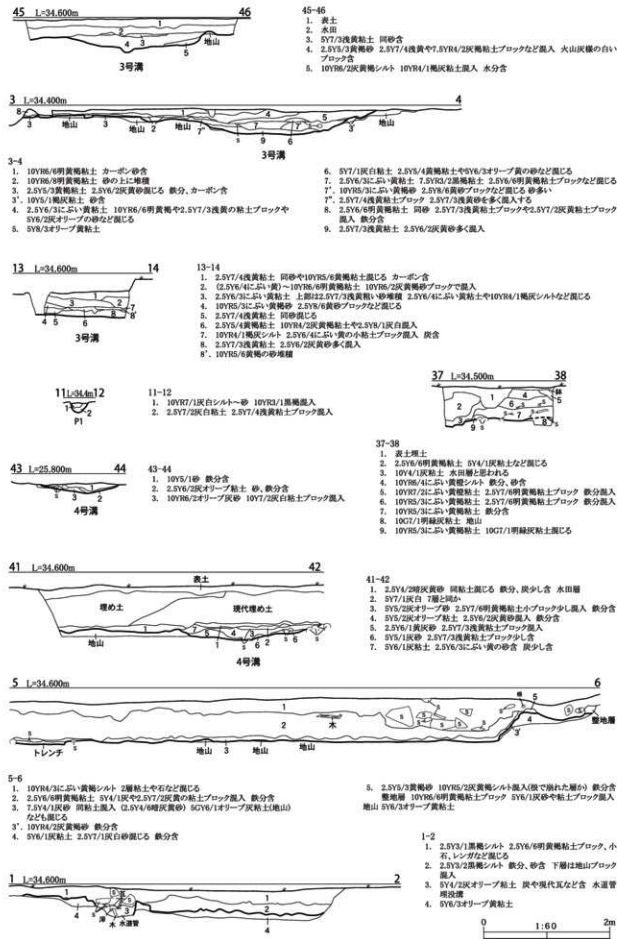


- 11層より砂を含み黒褐ブロックの混じりが少ない 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック、2.5Y5/2暗灰黄の砂や鉄分含
- 2.5Y6/6明黄褐粘土 5Y6/2灰白テープ粘土も入る
- 10YR3/1黒褐シルトブロックと2.5Y7/2灰黄粘土ブロック主体で10YR2/2黒褐シルト含
- 10YR3/1黒褐シルトブロック 2.5Y6/2灰黄シルト 2.5Y5/6黄褐砂ブロック 10YR6/6明黄褐粘土ブロックなど混入
- 13層同多し2.5Y7/4浅黄粘土ブロック混入する
- 10YR5/4に多い黄砂砂土
- 2.5Y7/1灰白粘土で2.5Y3/1黒褐粘土混入
- 10YR6/6明黄褐粘土5Y7/2(灰白) 10YR5/2灰黄シルト混入 カーボン少し混入
- 2.5Y4/2暗灰黄シルト 2.5Y6/3に多い黄シルトブロック混入
- 2.5Y5/2暗灰黄シルト 5Y7/3浅黄粘土ブロック混入 カーボン少し混入
- 2.5Y5/1黄灰シルト(→砂) 2.5Y7/2灰黄粘土ブロック混入 10YR4/1褐灰粘土ブロックも混入 上は2.5Y6/2灰黄シルト主体で11層との境を見ている

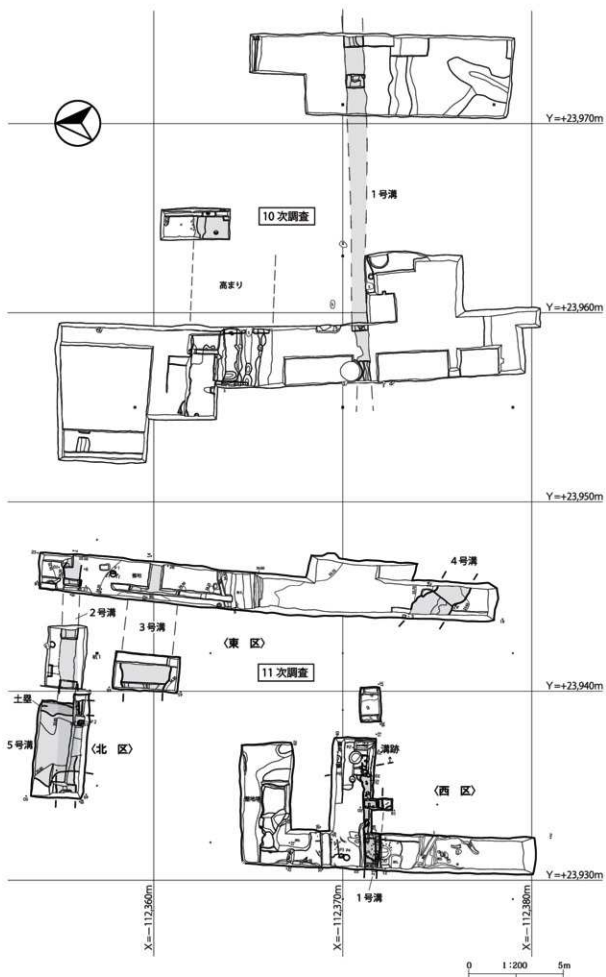
- 10YR6/2灰黄シルト入る 16層に続く様子で薄く入る 上部は15層の粘土多し混入
- 2.5Y7/4浅黄粘土 同砂や10YR5/6黄褐粘土混入 カーボン含
- (2.5Y6/4に多い黄)~10YR6/6明黄褐粘土 10YR6/2灰黄粘土ブロックで混入
- 10YR4/1褐灰シルト 2.5Y6/4に多い黄粘土小粘土ブロック混入 炭含
- 10YR5/6黄褐の砂層
- 2.5Y7/3浅黄粘土 2.5Y6/2灰黄砂多し混入



第5図 北区～東区 断面図



第6図 西区～東区 断面図



第7図 第10・11次遺構配置図

かわらけ



中国産磁器 (S=1/2)



銭貨 (原寸)



国産陶器



0 1:3 10cm

かわらけ、国産陶器

第8図 出土遺物

第1表 かわらけ観察表

No	図版	写真版	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			残存率 (%)	備考	登録No
					口径	底径	器高			
1	8	9	北区 P2	手づくね 大	14.8		2.5	40	反転実測 剥離	87
2	8	9	北区 P2	手づくね 大	—	—	—	一部	1と同一体と思われる	85

第2表 中国産磁器観察表

No	図版	写真版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
3	8	9	東区中央 水出層	白磁	壺	胴	12C	Ⅱ系	33-2
4	8	9	東区中央 水出上盛土層	白磁	四耳壺	胴	12C	Ⅱ系	43-3

第3表 国産陶器観察表

No	図版	写真版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
5	8	9	西区北側 現代備前	滑美	甕	肩	12C	押印 内面軸有	7-2
6	8	9	西区北側 現代備前	滑美	甕	肩	12C	押印有	12-3
7	8	9	北区北側 表上-水田層	滑美	鉢	体	12C	内面使用痕	107-2

第4表 銭貨観察表

No	図版	写真版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	重量 (g)	鋳造年代	備考	登録No
8	8	9	西区北側 集石箇所	寛永通宝	2.2	7.8	寛文8年 (1668~)	4枚結びて接着している	11

自然水路跡：主に西区と北区で確認した。北区の断面47-48では35-36層にかけて粘土や砂が混じった状態で、遺構に深く入り込んでいる。西区では調査区西側に南北方向に確認できる。平面ではくねったり消えたりしており、攪乱部分では壁に確認できる。この状況から遺構ではなく自然流路と判断した。1号溝の断面から桃類の種を出したが流路で運ばれた可能性もある。

3 出土遺物（第8図、写真図版9）

出土遺物はかわらけ、陶器、種々植物遺体、現代瓦等である。整地層や遺構をトレンチで調査しているせいが出土する遺物は少ない。1号溝や2号溝からはほとんど遺物を出土していない。1号溝は浅溝、2号溝は整地に覆われていることが影響しているのかもしれない。3号溝もかわらけは出土しておらず、桃類の種のみである。整地層や4、5号溝からは比較的かわらけが出土しており、観自在王院跡の西側土塁より新旧関係が古い2号溝から出土量が少ないことから、時期差によって出土遺物の量が変化している可能性もある。

Ⅳ ま と め

今回の調査では、観自在王院跡南西側の範囲確認を行った。検出遺構は、土塁跡、整地層、溝跡5条、柱穴4個である。以下遺構毎に記述しまとめて代えたい。

（1）土塁について

観自在王院西側を区画する土塁は、北区で築地塀の残欠と考えられる僅かな高まりを検出した。東側は現状が土手で、整備した土塁のラインからは、後世に多く削平された様子である。北区南の断面では上端幅35cm、基底部幅1.5m、高さ40cmの小山状の断面である。薄い黄灰色の層を介して上には、地山起源の黄褐色粘土を盛土し構築しており、明瞭な版築の痕跡認められない傾向は、前年度確認した南側を区画する築地塀と同様であった。また、西側に隣接する5号溝により整地と土塁との関係を明らかにすることは出来なかった。

（2）溝について

1号溝は西区中央において検出した。昭和30・50年に行われた南門付近の発掘調査では南門と土塁（築地）とともに、門柱から4.8m南において東西方向の溝を確認しており、溝の方向性と土塁との位置関係から、前述の調査で確認した溝と1号溝は一連の溝である可能性が高い。

2号溝は観自在王院の西側を区画する土塁の東隣東西方向にのびる溝で、人為的に埋め戻されていた。前年度までは西側土塁との新旧関係は不明であったが、今回の調査で土塁より下で確認したことから、観自在王院より古い12世紀の溝であると考えられる。

観自在王院南西側は、12世紀段階には毛越寺と観自在王院跡との間に介する南北道と観自在王院南隣を東西方向に通る大路との交差部分で、12世紀当時の平泉の都市景観を考えるうえで重要な場所である。今回の調査では①道路の交差部分の状況、②観自在王院の西・南側の区画施設の様相を確認する目的で調査を行ったが、残念ながら観自在王院跡南西隅の区画施設は攪乱によって失われていた。また、西側土塁と南側を区画する築地塀の構築状況が類似している状況も併せて確認した、次年度以降の調査で観自在王院南側の区画施設が土塁なのか築地なのか確認する必要がある。

写真図版





西区（西から）



東区南側（西から）

写真図版1 西区・東区南側



北側（南から）



北東側集石箇所（東から）



断面 35-36



西区東側（南から）



1号溝 断面 27-28



1号溝 断面 21-22

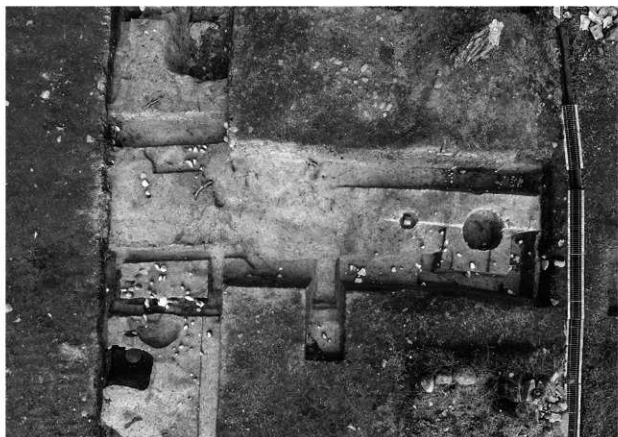


1号溝 断面



1号溝 断面 19-20

写真図版 2 西区



西区中央（南から）



断面 23-24（東から）



断面 39-40（南東から）



断面 51-52（北から）



断面 37-38（北から）

写真図版3 西区中央から東



3号溝 断面 3-4 (東から)



3号溝 断面 45-46 (東から)



3号溝 断面 13-14 (西から)



3号溝 全景 (東から)



中央部整地層 (西から)



水田耕作跡 (西から)



4号溝 (南東から)



4号溝 (西から)

写真図版 4 東区



北区・東区北側（西から）



東区北側表土除去（南西から）



2号溝と東の整地（北から）

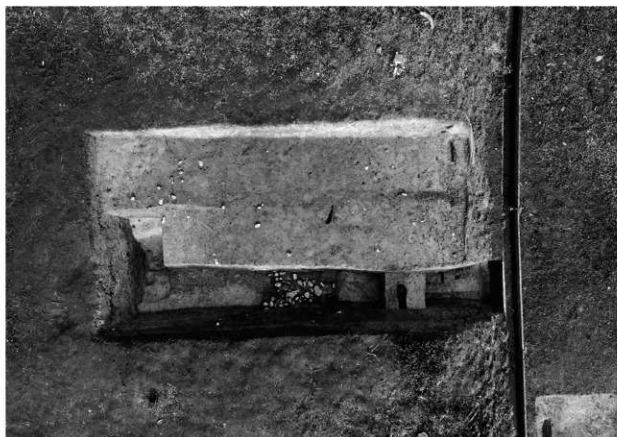


2号溝 断面（西から）



2号溝周辺（東から）

写真図版5 北区・東区北側



北区全景（南から）



5号溝 断面（南から）



2号溝 断面（西から）



5号溝と整地（南西から）



2号溝（東から）

写真図版 6 北区（1）



土塁と5号溝 (南から)



土塁構築層 (北から)



5号溝 (北から)



北区全景 (北から)



南トレンチ (東から)

写真図版7 北区 (2)



調査前の状況（南から）



調査前の状況（南西から）

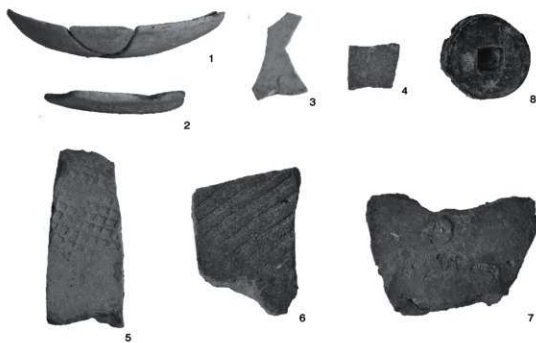


P.1（東から）



P.2かわらけ出土状況（東から）

写真図版 8 調査前状況と柱穴



写真図版 9 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	めいしょうきゅうかんじざいおういんていえんはつくつちようさほうこくしょ							
書名	名勝 旧観自在上院庭園発掘調査報告書Ⅱ							
副書名	第11次調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第139集							
編者者名	島原弘征 鈴木江利子							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111(代)							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査 面積	調査原因
		山町村	遺跡番号					
観自在上院跡	岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地内	03402	NE76-1062	38°59'15"	141°06'25"	20191031～1209	125㎡	史跡整備を目的とした内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
観自在上院跡	寺院	12世紀	溝 柱穴 土塚 整地層		かわらけ 中国産磁器 国家陶器 銭貨			
要約	<p>観自在上院跡南西側を対象とした内容確認調査報告である。</p> <p>調査の結果、観自在上院跡の西側を区画する土塁跡を確認したが、南西隅付近の擾乱が著しく区画施設を確認することができなかった。また、西側の区画施設は版築とはいえない盛土で構成されており、築地塼というよりは土塚に近いと考えられる。</p>							

岩手県平泉町文化財調査報告書第139集

名勝 旧観自在王院庭園発掘調査報告書Ⅱ

— 第11次調査 —

印刷 令和3年3月25日

発行 令和3年3月31日

編集・発行 平泉町教育委員会
〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2
電話 (0191) 46-2111(代) FAX (0191) 46-2015

印刷 株式会社 一閃プリント社
〒021-0031 岩手県一関市青葉一丁目7-24
電話 (0191) 23-4586(代)